

## 2 月低山はいかい「石神井川の今と昔を巡る〈板橋～王子～旧染井村〉」実施報告

実施日:2 月 26 日(水)

概要:江戸四宿の一つ旧板橋宿を起点に石神井川河岸を王子まで歩き、石神井川下流域における地形、流路の変更と周囲の歴史、また武蔵野台地の東端(へり)の段丘崖に育まれた王子駅周辺にみられる自然、歴史、文化を探訪した。最後に江戸時代の花卉・植木の一大生産地で多くの園芸種を生み出したソメイヨシノの故郷、旧染井村(現北区駒込)を訪れた。

行程・所要時間:

都営地下鉄三田線板橋本町駅集合 9 時 30 分。同駅前出発:9 時 40 分。板橋本町駅前-旧中山道・板橋-加賀公園-もみじ緑地-さくら緑地-王子・音無親水公園-王子神社-王子稲荷神社-名主の滝公園-装束榎-北とぴあ(17階展望台)-飛鳥山公園-西ヶ原一里塚(榎)-旧染井村さくらの里公園-駒込駅前。駒込駅到着 15 時 40 分、歩程約 11 キロメートル、総所要時間 6 時間、うち昼食時間 30 分。

参加者:14 名

幹事:原田博雄、大石征夫、清水 長、滝川憲政、守屋龍男、武田 寧、浜畑祐子

山本明子、瀬川真治、丸山 正、福重昌行、福田正男、金谷修文、飯塚義則

報告者:飯塚義則

本文:

板橋本町駅前から旧中山道を、「縁切り榎」の伝説が残る稲荷神社を経て暫く進むと「板橋」の架かる石神井川である。この川は小金井ゴルフ場付近に源を発し、JR 王子駅の東側で隅田川に合流する。暴れ川であったため、河川改修によりその流路は必ずしも昔の姿を留めていないが、武蔵野台地の谷である石神井溪谷、滝野川溪谷、音無溪谷を縫って流れていた(石神井川は滝野川、音無川と名を変える)。

午前中、川岸を歩きながら広大な加賀藩の下屋敷跡、その跡に建てられた陸軍造兵廠の火薬製造工場跡等を見学した。そして北区に入り、滝野川の早瀬、昔の流路や松橋弁財天洞窟の跡、旧石神井川の河岸の自然露頭、飛鳥山分水路、王子石堰跡・音無親水公園等を巡った。どの場所でも原田さんの安藤広重の「名所江戸百景」の浮世絵を使用しての説明に、参加者一同熱心に耳を傾けた。また、川面には、マガモ、オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、オオバン等が群れ、この季節ならではの水鳥の様子を観察できた。

午後は、豊島氏が熊野より王子大神を勧請した王子神社、王子稲荷神社、武蔵野台地段丘崖の湧水を利用した庭園の「名主の滝公園」、装束榎を訪れた後、「北とぴあ」の 17 階から周囲を鳥瞰し、その状況がよく理解できた。その後、江戸時代より人々に愛された桜の名所、飛鳥山や江戸時代の名残を留める日光御成道の西ヶ原の一里塚(榎)を見学した。最後に、太古の石神井川の流れの跡を追いつつ、ソメイヨシノの故郷、旧染井村を訪れた。そこは、江戸時代、一大園芸地で、

伊藤伊兵衛家に代表される植木屋達により今日に継承される多くの園芸種が開発された所でもあり、感慨深く見学した。

振り返りと解散は駒込駅近くの広場で行った。本日の「低山はいかい」は盛り沢山でしたが、東京の自然と歴史を訪ねるこの旅に多くのことを学ぶことができました。ひとえに、原田さんのおかげであると感謝申し上げます。

以上



縁切り榎



地名板橋の由来



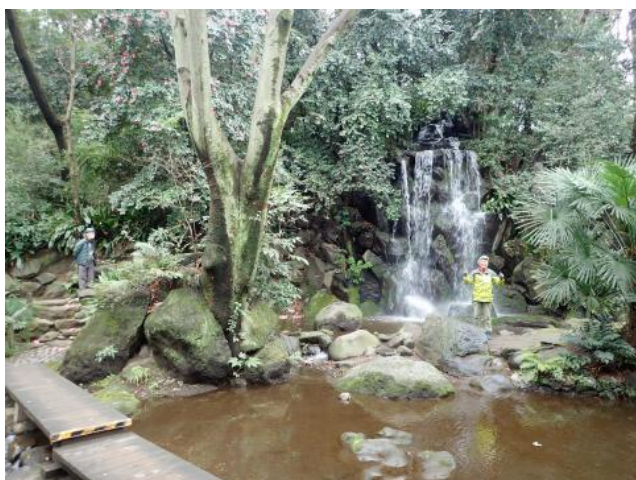
加賀前田家下屋敷跡



音無橋の下で昼食



音無親水公園にて参加者一同



名主の滝公園(段丘崖・男滝)



装束榎



西ヶ原一里塚(榎)